

# 協議会だより 第4号

## 【 目指す子ども像 】

- ◇ 夢に向かって自ら学ぶ子
- ◇ つながり（絆）を大切にする子 （事務局）宇治田原町教育委員会
- ◇ 誇りを持ってふるさとを語れる子 教育課 TEL(0774)88-5850

## 宇治田原町の小中一貫教育をどう展開するのか — アンケートの結果を踏まえ、活発に論議 —

12月9日、町総合文化センターで第4回宇治田原町小中一貫教育推進協議会を開催し、「小中一貫教育推進アンケート」の結果を踏まえ、今後の本町の小中一貫教育の進め方について話し合いました。協議の内容について、概要を報告させていただきます。

### ① 「小中一貫教育推進アンケート」の結果を踏まえ

- 今後、地域や保護者の皆様の意見を聴きながら、情報提供やメリット、デメリット等を分かり易く説明する必要がある。
- 宇治田原町の子どもたちを「オール宇治田原」で育てる一貫教育を進めたい。
- 現時点で本町の進める一貫教育として結論を出すには至っていないが、一部に「一貫教育」イコール「施設一体型」という誤解が見られる。
- 一貫教育については、6、7年前から提起があったが、本格的に議論されてきたのは近々である。今回のアンケートが情報発信のスタート。課題も含め、様々な観点から話し合っていきたい。
- 今後、一貫教育の内容について、メリット、デメリット、通学やその他細部も含め、発信していく必要があり、新年度の展開を含め考えたい。

### ② 「小中一貫教育のメリット、デメリット」について協議

- 小・中学校の段差については、昔と大きく違う「子どもたちの成長の早熟化、思春期の早期化」がある。その中で今の子どもたちは困難を抱え不登校が中1になってかなり増えてくる状況がある。6・3制の教育制度も見直しを問われている面もある位で、昔の小中ギャップや中高、高大のギャップとは意味が大きく異なる。

- 中学生の悪い真似を小学生がする心配があるとあるが現状は？。
- 状況によってはあり得る。それを教員がどう指導し子どもたちがどう行動するかが重要。学校生活全般で指導を高めることが大切。現在の小中連携教員は、その視点で小学生の時から見守り育てる責務がある。
- 良くないことを真似ることはあるかも知れないが、良いことを真似ることも大いにある。一貫教育ではそのことに大きな意義がある。取組によって中学生の自負を持った言動が増えたという先進事例もある。地域全体で、「子どもたちを見守り育てる」中で、良い方向になっていく部分が大いにある。
- 本中学生が小学生に紙芝居を読み聞かせする取組では、とても良い表情や態度を見せる。中3生が保育所に出かける取組には、どの生徒にも大変良い様子が見られ全生徒の良い面が引き出せる活動となっている。
- 「真似る」心配は小学校時からあること。今の維中の厳しい実態はあるが、2小が小学校時から宇治田原町の小学校として、方向を一にした指導をしていくことが大切。小学校時から維中卒業の15才を見据えた指導をすること、そのことに小中一貫教育の大きいメリット、意義がある。2小で競う意味より、ともに連携して「正義を見極める力」等を、2小1中の一体指導で育て、高めていくことが重要。
- 小中一貫教育の強い目的意識や内容の必要性が、もう一つよく理解できない。先の内容は小中連携教育では実現できないのか。施設建設ありきが出てくると、分かりにくくなる。
- 施設一体型か分離型か、それを明確にした方が論議しやすいのではないか。
- 町として分離型か一体型かを提起するのは拙速ではないかと、今までは明確にしてきていないが、どちらかの方向性を出していく時期と考えられるかもしれない。町行政、教育行政レベルの方向性を明確にする時期の検討について、今後時間的ロスが無いよう進めていきたい。
- 一貫教育は究極の連携教育と言える。一体か分離が論点になっているようだが、一貫教育の内容・意義はそれにかかわらず、

- ① 「育てたい子ども像」を一にして、
  - ② 指導内容と方法を9年間見通したものにし、
  - ③ 3小中学校教員の協働により、取り組むこと
- にある。3学校は今、その視点に立って、同一方向で小中一貫教育を進めている。



< 裏面に続きます。 >

- 分離型か一体型かは宇治田原町民の総意を汲み、今後の町政の中で進めるべきこと。連携教育は実施主体が3校それぞれで、それぞれの「思い」で変わりやすく、町内一致した指導が崩れやすいことがある。一貫教育は町ぐるみの目標や方向の「しぼり」で進める意義が大きい。同じ縦中に進み巣立つ宇治田原の子どもたちの教育を、3校で一致して9年間、究極の連携を追究しつつ進めるのが小中一貫教育である。今の分離の中でも三鷹市や宇治市のように、十分小中一貫教育は推進できると考えている。そのためにも3校分離の現状のままで「〇〇学園」として立ち上げ、2小1中が一体として進めるのが良いのではないか。
- 一貫教育では英語等を特別手厚く取り組むような教育はできるのか。
- そのような独自性の強い教育は「教育課程特例研究指定」等でないと認められない。
- 地域住民やボランティア活動の中で聞く声には、一貫教育を「特殊なもの」と考える人が多かったように思うが。
- 施設一体型か分離型かについても段階的にじっくりと進めば問題ないが、この協議会で進めて良いものか。アンケートやこの議論だけでなく、実際に教育に関わる側での話が必要ではないか。小中一貫教育は問題ないが、教育についての責任は協議会としては重いと感じる。
- 先程からの小中一貫教育についての各委員からの説明で、小中一貫教育についての理解が深まった。本推進協議会の役割は小中一貫教育の推進と考えていきたい。
- 本推進協議会が施設の如何を決めるものではない。今は現状の施設において本町の小中一貫教育を推進していくことを確認したい。
- 分離型か施設一体型かは将来的な今後の町の施策と考えたい。

### ③ 宇治田原町としての「小中一貫教育及び学園構想」について

- 「小中連携教育」は、「小・中学校それぞれが別々という前提に立ち、教育目標やカリキュラムの共通している部分などを協力して行う」教育で、「小中一貫教育」は「教育目標、めざす子ども像、カリキュラム等も共に作成し指導する」教育である。
- 「小中一貫教育」のねらいで先ず重要なのは、
  - ① 教職員の意識改革と指導力の向上、学校の教育力を高めること
  - ② 子どもたちの学力向上と人間関係力の育成を図ること
  - ③ 小・中学校間の不要なギャップを解消し、子どもたちの心と生活の安定を図ること等である。

- 宇治田原町の小中一貫教育の方向性  
「3小・中学校が『育てたい子ども像』を共有し、その達成に向けて義務教育9年間を通して系統的な指導を協働する教育」を推進
  - ① ふるさと(地域)学習を通して「誇りを持ってふるさとを語る人」を
  - ② 学力向上に向けた取組を通して「夢に向かって学ぶ人」を
  - ③ 児童生徒の交流や人権学習を通して「人とのつながりを大切にする人」の育成を目指す。
- 施設一体型を「小中一貫校」、校地独立(施設分離)型を「小中一貫教育校」と整理して規定するが、どちらの形態であっても、9年間の教育を3校が協働で行う「学園構想」を持って進めたい。その場合も今の3校の学校名は何の変更もない。

### ④ 本協議会「地域連携部」からの報告と今後の方向性の説明

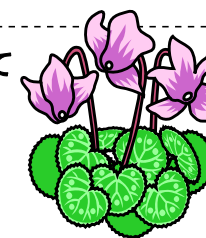
- 去る11月29日に3校の学校評議員、学校支援ボランティア、PTAの方々や校長、教委等19名で第1回の「地域連携拡大部会」を開催。そこで出された内容について
 

① 学校支援ボランティアの育成・拡充	② 地域ぐるみの子育て
③ 地域コミュニティの充実	④ 地域から学校へ
⑤ 学校から地域へ・学校の工夫	

 の5点に整理し、次回の第2回目の拡大部会(1月30日)で内容を確認し、今後に向けての協議を行います。  
また、次年度以降には、3校の学校評議員の連携(合同)会議を持って協議・交流を行うという確認もありました。

### ⑤ 次回以降の本推進協議会の会議日程について

- 第5回目会議を2月17日に開催、本年度最終の会議として本年度のまとめと次年度を見据えた小中一貫教育の推進事業についての協議を予定しています。



※ 「小中一貫教育推進アンケート」の全ての数値やご意見については、教育委員会ホームページに掲載しています。また、町役場の窓口と教育委員会にも用意(お持ち帰り用)していますのでご利用ください。  
(教育委員会ホームページ) <http://www.town.ujitawara.kyoto.jp/education/>